

ひの 研究・研修 ニュース

令和2年度校内研究 研究通信 No.1 2020. 7. 1

「研究研修係が貸し出している支援グッズの紹介」

分散登校が続いているため、今年度の校内研究の開始は9月に予定しています。港南台ひのでは、5分間ミーティングを校内研究として取り組んでいます。5分間ミーティングでの校内研究のお知らせは、今年度の全体説明会開催後に改めてご紹介いたします。

ということで、今回は、研究研修係が貸し出している出版物や支援グッズを紹介いたします！！

おすすめ図書



左「TEACCHプログラムに基づく自閉症児・者のための自立課題アイデア集」…課題を作るときに参考にできる内容盛りだくさん。
中央「知的障害・自閉症のある人への行動障害支援に役立つアイデア集」…行動障害への対応を考えるときの強い味方。事例と対応が分かりやすい。
右「行動障害の理解と適切行動支援」…行動分析するときのポイントを分かりやすく説明している。

支援グッズ



コバリテ視覚支援キット

ビーズクッション

本校には現在「コバリテ視覚支援キット」がらセットあります。スケジュールの必要性に合わせ、一日のスケジュールや週ごとのスケジュールを伝える手段として活用しています。必要なカードは写真をコンビニエンスストアで印刷して追加できるため、個別のスケジュールの提示ができることが強みです。

ビーズクッションは、6個用意しました。主な活用方法は、カームダウンエリア（感情的になったとき、冷静になる場所）としての利用です。活動する場所と落ち着く場所を分けることで、感情的になってから落ち着くまでに要する時間やエネルギーの短縮が期待され、さらに活動に戻るときの場面の切り替えにも有効です。

じりつかだい かつどうかいし 自立課題チーム 活動開始

本校では、2年前より「自立課題チーム」という有志の実践チームを立ち上げ、学校現場でTEACHHプログラムの自立課題に取り組んでいます。今年度は、11名のメンバーが集まり、5月15日に最初の学習会を行いました。（メンバー以外の参加者を含め20名の参加でした。）初回は、自閉症者の学習スタイルについて学び、どのような場面で困り感があるのかを確認しました。そのうえで、児童生徒の困り感に対してどのように対応していくのかを具体的に学びました。対応するときに大切な3つのポイントが「構造化」・「ワークシステム」・「スケジュール」です。説明を受けなくてもその場で何をしたらいいのかわかるような環境にすることを構造化といいます。構造化というと、聞きなれないかもしれませんが、実は私たちの日常には構造化されたものがあふれています。例えば、駅の乗り換え案内など路線ごとに色分けされた表示やラインがあることで、そのラインを辿れば説明を受けなくても迷わず目的の路線に乗り換えができるようになっています。コロナ対策で、間隔を開けてレジを並ぶ時も、足形で立ち位置を示して、お客に指示を出さずに自然とソーシャルディスタンスを保てるようになっています。

今何をしたらよいかのわかる支援を行うためにもどのような形でメッセージを伝えていくのか検討することが大切です。そのためにも、まずは子どもの実態を把握し、実態に合わせた形で学習提供する大切さと具体策を学ぶ機会を持つことができました。



じっせん しょうかい ひのの実践がDVDで紹介されました

～オフィスぼん 中山清司さんに自立課題の構造化・アセスメントのレクチャーを受けて～



2年前、自立課題チームはオフィスぼんの中山清司さんから直接、自立課題の実践のスキルアップ研修を受ける機会がありました。この研修では、アセスメントを行うための活動や、課題に取り組んでいる様子を受けて、活動の提示の仕方の再検討をしていくポイントなど大切な視点をたくさん学ぶことができました。

その研修で学んだことを生かして取り組んだ本校の実践の様子が「自閉症とともに 自閉症の理解と支援」第3巻で紹介されました。第1巻「自閉症の人を理解する」第2巻「自閉症とともに生きる」第3巻「自閉症の人を支援する」の3巻セットのDVDです。



横浜市立港南台ひの特別支援学校

Let's Study
for our Children.

研究研修係

小学部：金内 永島 日高 福井 山本し
中学部：藤田
高等部：小早川 佐藤 野田